



なか なま

ダンボールの中で生ごみがへんしん

りょうり とき で やさい た のこ なま す
料理をする時に出た野菜くずやみんなの食べ残しは、生ごみとして捨てられることがほとんどです。
でも、ごみを減らすため、生ごみをちょっと工夫して、畑の肥料にへんしんさせてみよう。

用意するもの

ワークシート、ダンボール箱2個(たて30cm×横45cm×高さ30cmくらいのもの。10キロ入りみかん箱くらいの大きさ)、木の切れはし・ラップの芯など、ピートモス15リットル・もみがらくん炭10リットル(どちらも庭などの土にまぜるもので、ホームセンターなどの園芸コーナーで売っています。)、シヤベルやへら、温度計(100°Cまで測れるもの)、調理はかり、体重計、はさみまたはカッターナイフ、ガムテープ

すすめ方

- ① ダンボール箱の上ふたを立てて、四すみをテープでり合わせます。ダンボール箱の底がぬけないように、底と同じ大きさに切ったダンボールを中にします。
- ② 別のダンボールでふたをつくります。ダンボール箱と床の間にすきまができるように、木の切れはしやラップの芯を5cmくらいに切ったものを、ダンボール箱の下に置きます。かべからも5cmくらい離します。
- ③ ピートモスと、もみがらくん炭を、ダンボール箱の深さの半分くらいまで入れ、よく混せます。
- ④ 体重計でダンボール箱全体の重さをはかります。
- ⑤ 次に、生ごみの重さを調理はかりではかったあと、ダンボール箱に入れ、よくかき混ぜます。かき混ぜ終わったら、中心に温度計をさし、虫などが入らないように、しっかりとふたをします。
- ⑥ 2日目からは、生ごみを入れるたびに、箱の中をよくかき混ぜます。生ごみを入れない日も、必ず1日に1回はかき混ぜよう。かき混ぜる前にダンボール箱の中のようすや、におい、温度などを観察しよう。生ごみの大きさや種類が変わると、中のようすがどのように変わるかということも観察してみよう。
- ⑦ 3か月くらい続けたあと、生ごみを入れることをやめ、体重計でダンボール箱全体の重さをはかり、最初にはかったときの重さと比べてみよう。
- ⑧ ときどき中をかき混ぜながら、1~2週間くらいおき、同じ量くらいの土と混せて、1か月ほどおくと、肥料のできあがりです。できあがった肥料をつかって、野菜や花を育ててみよう。



注意点・工夫

- はさみやカッターナイフを使うときは、けがをしないように注意しよう。
- ダンボール箱は、温度が15℃以上の場所に置くようにしよう。
- 温度計は割れやすいので、箱の中をかき混せるときは、抜いておこう。
- 次のものを入れると、肥料づくりがうまくいかないので、生ごみから分けておこう。
 (たくあんなど塩分の多いもの、とうもろこしの芯・ブドウ・うめぼしの種など、とりや豚の骨、レモンの皮、シジミやアサリなどの貝がら)
- においがひどくなったり、虫がたくさん出てきたときは、肥料づくりを中止し、箱の中身を土にうめるなどして、また最初からちよう戦してみよう。

ワークシート

なまえ _____

☆全体の重さ 生ごみを入れる前 _____ kg

☆観察日誌

月 日 がつび (例) ○月□日	生ごみの 量 りょう	ごみの種類 しゅるい			おんど 温度	なか ようす き 中の様子や気づいたこと
		やさい 野菜	さかな 魚	その他		
○月□日	600g	○	○		15℃	
○月△日	500g	○		○	17℃	おんど 温度 あ が上がっている。

☆ 全体の重さ 生ごみ入れ終了(観察)後 _____ kg

☆ 気づいたこと・感じたこと